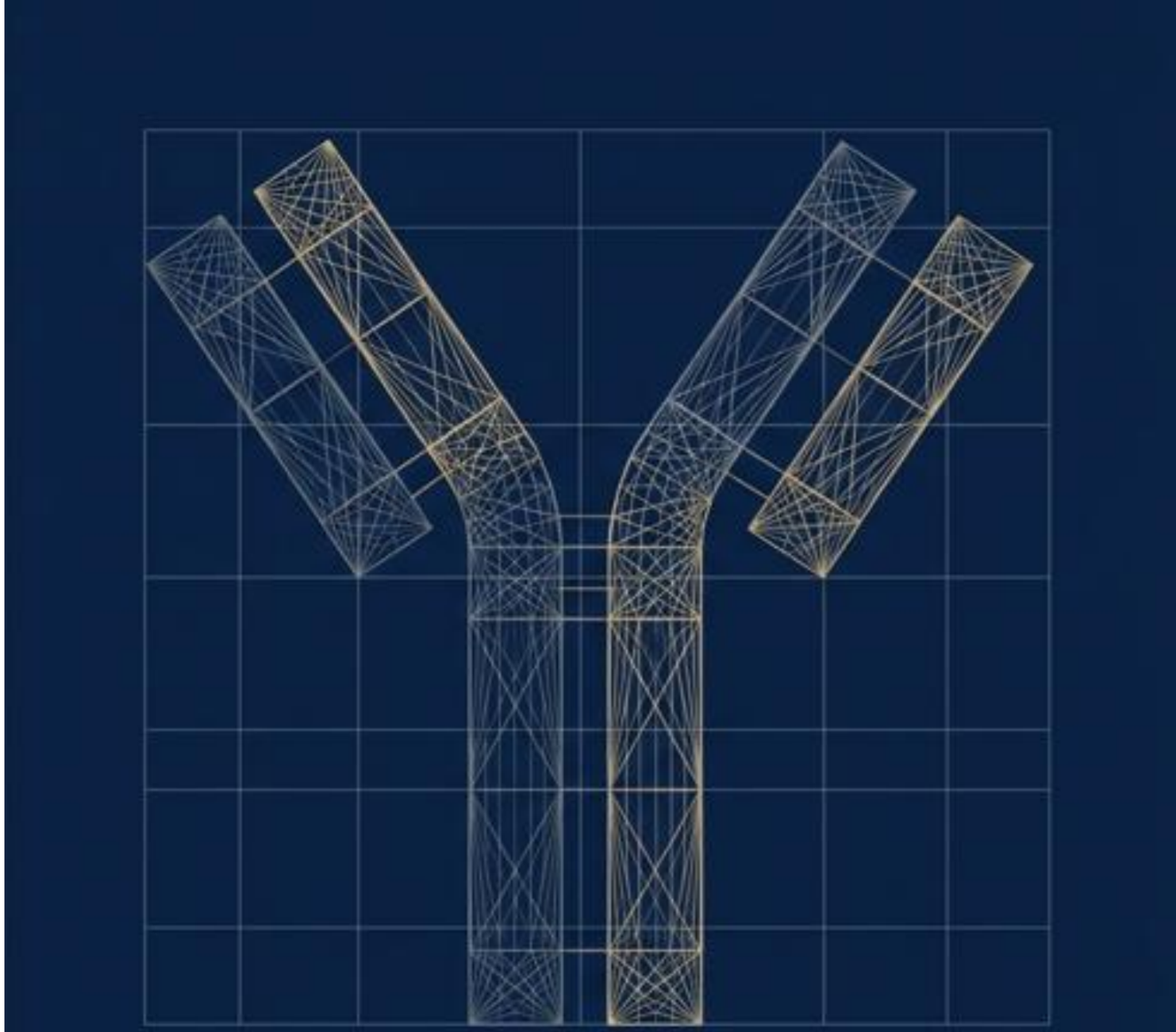
2027年3月期 第2四半期
決算説明会 資料

株式会社ペルセウスプロテオミクス



2026年11月17日

本資料の取扱いについて

- 本資料は、当社が現在入手可能な情報をもとに作成されております。将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述であり、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があることにご注意ください。

- 本資料は、投資家の皆様の当社への理解を深めていただく目的で作成・開示したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の有価証券への投資判断は、ご自身の判断で行うようお願いいたします。

- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

PPMX
PERSEUS PROTEOMICS

世界の「生きる」に届く技術を。

ペルセウスプロテオミクスは、病に苦しむ世界中の人々のために、独自の抗体技術を駆使して新しい抗体医薬品の創薬を目指すバイオベンチャーです。



企業理念

最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する

目次

01　事業概況

02　2027年3月期　第2四半期　決算概況

03　成長戦略

補足　ペルセウスプロテオミクスについて

01　事業概況

2027年3月期：第２四半期 ハイライト

① 杏林製薬株式会社と新規抗体医薬創出を目指し共同研究契約を締結

② TOKYO 戦略的イノベーション促進事業が完了

③ 個人株主様を対象としたIRイベントを開催

① 杏林製薬と新規抗体医薬創出を目指し共同研究契約を締結

杏林製薬株式会社

企業理念「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」に基づき、新薬の提供を通じて人々の健康に幅広く貢献する企業

共同研究契約締結

×

株式会社ペルセウスプロテオミクス

病に苦しむ世界中の人々のために、独自の抗体技術を駆使して 新しい抗体医薬品の創薬を目指すバイオベンチャー

革新的抗体医薬品

特定の疾患領域に対する新規抗体医薬品を創出

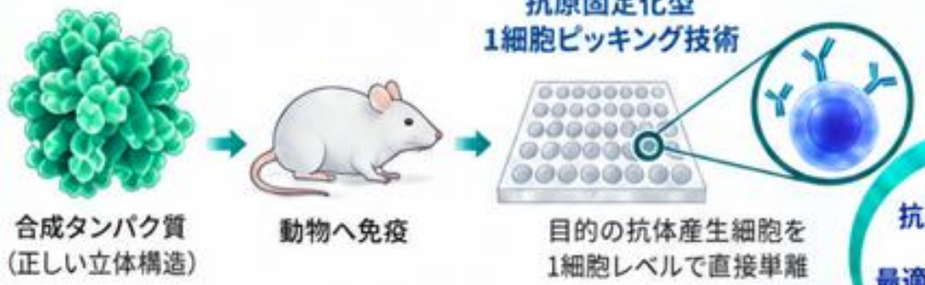
② TOKYO 戦略的イノベーション促進事業が完了

抗原の特性に合わせて、ふたつの抗体取得技術の使い分けが可能
創薬標的として極めて重要な難抗原の抗体も高効率・短期間で取得

事業拡大フェーズへ移行

通常抗原 アプローチ　合成タンパク質免疫

水溶液中で立体構造を保てる通常のタンパク質に対応



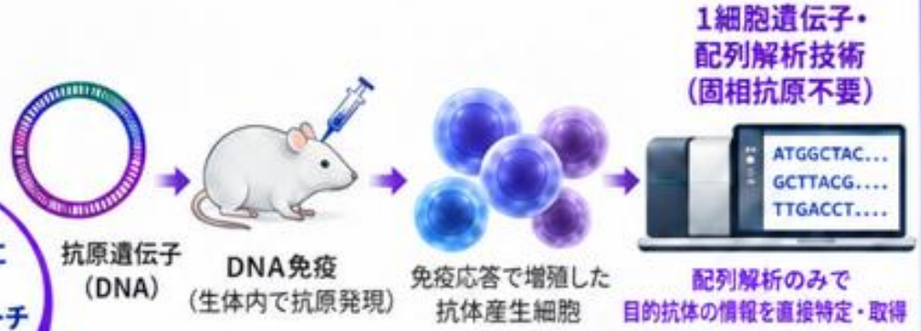
特徴・強み

- 正しい立体構造を持つ合成タンパク質を用いて直接スクリーニング
- 1細胞レベルで目的の抗体を産生する細胞を直接単離
- NGSによる多検体配列解析（★本事業のコア成果）

抗原の特性に応じて最適なアプローチを選択

難抗原 アプローチ　DNA免疫 × 高度配列解析

膜貫通型タンパク質など、試験管内での立体構造維持・合成が困難な標的に対応



特徴・強み

- 精製タンパク質の作製や抗原の固定化が一切不要
- 免疫応答で増殖した細胞クローンを高精度に特定し、配列解析のみで目的抗体の情報を直接特定・取得
- 膜貫通型タンパク質など創薬上重要な難抗原へ対応（★本事業のコア成果）

本プラットフォームがもたらす事業価値

1 あらゆる創薬ターゲットに対応
従来は抗体作製を諦めていた標的(難抗原)への創薬パイプラインを拓く

2 1細胞解析による高効率化
従来法に比べ、目的抗体の同定精度・成功確率を大幅に向上

③ 個人株主様を対象としたIRイベントを開催

「第２回個人株主を対象とした日本橋ラボ見学会」を実施
株主の皆様との対話の機会を設け、基盤技術の理解を促進

＜イベント概要＞

日時：2026年10月24日（土）10:00～12:00

場所：ペルセウスプロテオミクス　本社

対象：個人株主

内容：①会社紹介/抗体技術の説明
②ラボツアー/実験体験
③特別講演



2027年3月期：計画と第2四半期までの進捗

計　画	進　捗
1 導出活動：PPMX-T003 / PPMX-T002 -導出活動を継続	• 各パイプラインは導出活動を継続中
2 臨床開発：PPMX-T003 -アグレッシブNK細胞白血病の医師主導治験を終了（2027/3） -PMDA相談を実施	• 医師主導治験は継続して実施中
3 探索研究：PPMX-T004 -非GLP[1)]毒性試験を終了（2026/9） -抗体MCB[2)]の製造に着手（2027/1）	• 非GLP[1)]毒性試験は９月末に終了。結果を精査中 • 第85回日本癌学会学術総会にて研究成果を発表
4 基盤技術①：PPMX抗体ライブラリ２ -パイプライン化の推進・プラットフォームビジネスとして事業拡大	• 杏林製薬(株)と共同研究契約を締結 • Eurus Therapeutics(株)との共同研究が進展、新契約を締結
基盤技術②：高効率シングルBセルプラットフォーム技術 -事業化に向けたビジネスモデルの構築	• TOKYO戦略的イノベーション促進事業の完了報告書を提出

1) GLP：非臨床試験において、試験施設の設備・機器、組織・職員、検査・手順・結果等が、安全かつ適切であることを保証する「優良試験所規範(基準)」
2) MCB：マスターセルバンク。製造の起点となる細胞株の凍結保管ロット

導出活動の進捗状況

PPMX-T003：

・欧米およびアジアの製薬企業やバイオファーマ、またベンチャーキャピタルに対し、本剤導出に向けたアプローチを繰り返し実施
・本剤に興味を持つ複数の候補企業に情報提供
・今後は、真性多血症に加え他の疾患への適応拡大も視野に導出活動を推進
・真性多血症を対象とした第Ⅰ相試験について、さらに詳しく調べることを目的に実施した臨床研究の結果が、第68回米国血液学会にて採択

PPMX-T002：

・本剤に興味を持つ複数の放射性医薬品開発企業に対し、本剤導出に向けたアプローチを繰り返し実施
・今後は、最近、放射性医薬品の開発を強化している候補先を中心に導出活動を推進

開発パイプラインの進捗状況

開発コード	標的	対象疾患	創薬研究	非臨床試験	Phase1	Phase2	備考
PPMX-T003	TfR1	PV[1)]	導出活動中				
		ANKL[2)]	医師主導治験				AMED *
PPMX-T002 (RIT[3)])	CDH3	固形がん	治験終了[4)]				** 富士フイルム株式会社
			導出活動中[5)]				

1) 真性多血症　2) ｱｸﾞﾚｯｼﾌﾞNK細胞白血病　3) 放射性同位体標識抗体　4) RI:^{90}Y　5) RI:^{225}Ac

＊　AMED 創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業の支援を受けて医師主導治験を実施中
＊＊　当社が創出。富士フイルム株式会社が米国にて進行性固形がん患者さんでの第Ⅰ相試験を実施したが、事業方針の変更により、2022年3月に実施権が返還

PPMX-T003：アグレッシブNK細胞白血病領域の進捗状況

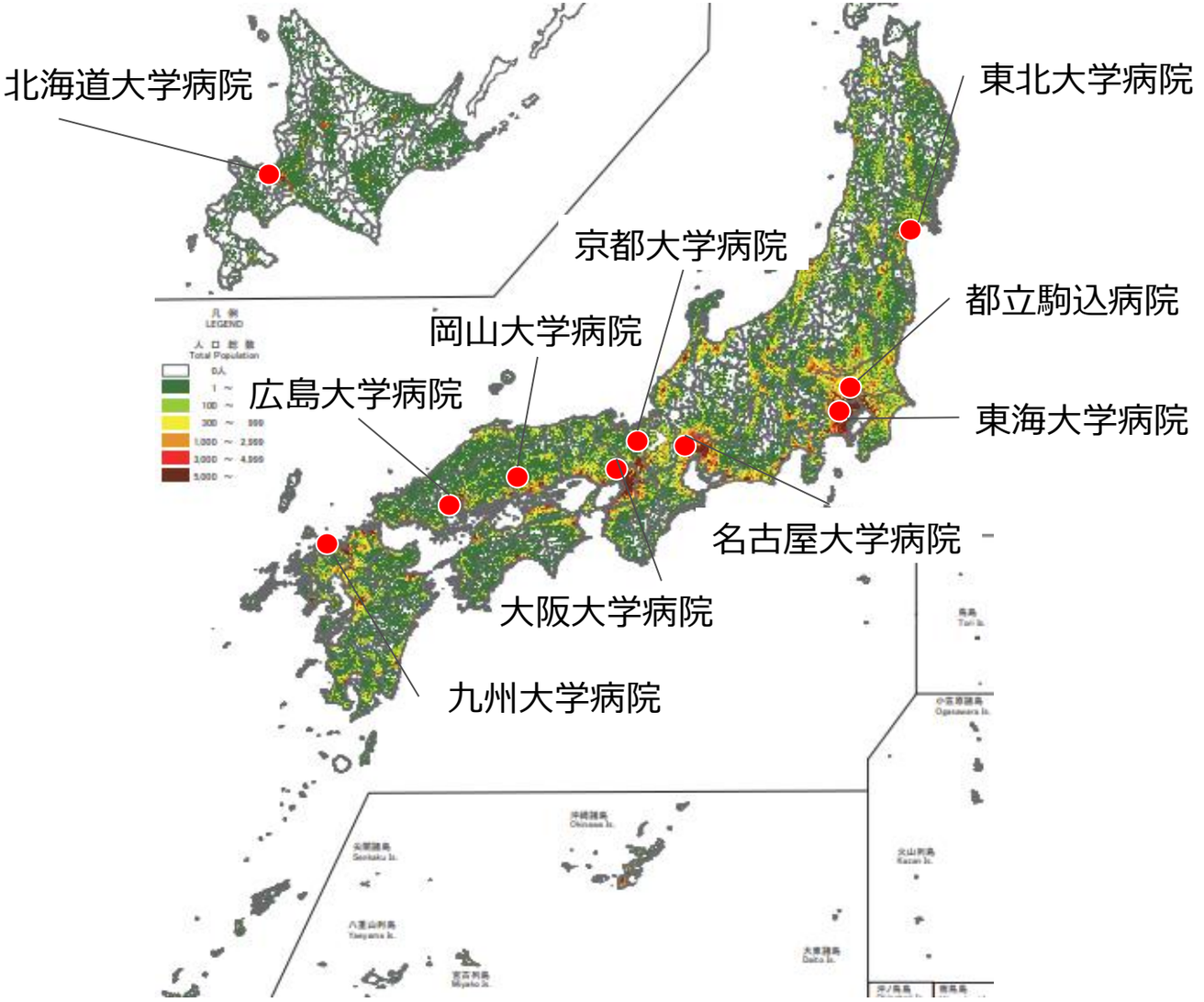
医師主導治験の概要

- 試験デザイン：非盲検・非対称・用量漸増
- 対象疾患：アグレッシブNK細胞白血病
- 主要評価項目：忍容性及び安全性
- 実施期間：2023年4月 ～ 2027年3月
- 治験調整医師：広島大学病院　血液内科　安藤　潔 先生
- 治験実施施設：全国10医療機関（右図）
- 備考：jRCT ＊ 臨床研究実施計画番号：jRCT2061230008

AMEDの支援

- 令和８年度　創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業に採択
- 令和８年度の当該治験費用として、助成金1億円を獲得

＊ jRCT https://jrct.mhlw.go.jp/



「令和2年国勢調査に覆する地域メッシュ統計地図」（総務省統計局）
https://www.stat.go.jp/data/mesh/pdf/r2sousu.pdf）を加工して作成

創薬パイプラインの進捗状況

No.	モダリティ	標的	対象疾患	抗体ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ系構築	抗体取得	抗体最適化	非臨床試験	提携先
1	ADC [1] (PPMX-T004)	CDH3	固形がん					UBE
2	BsAb [2]	非公開	血液がん					中部大学
3	BsAb [2]/ADC [1]	非公開	固形がん					非公開
4	ADC [1]	非公開	固形がん					NCCJ National Cancer Center Japan
5	naked [3]	非公開	消化器系疾患					NCCJ National Cancer Center Japan / 名古屋大学 Nagoya University

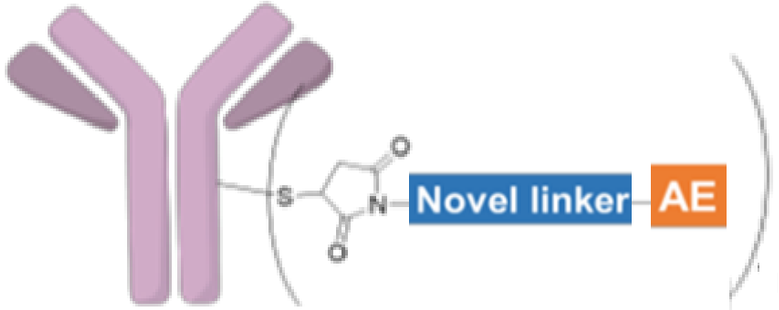
1) 抗体薬物複合体　2) 多重特異性抗体　3) IgG抗体

PPMX-T004の概要

経緯

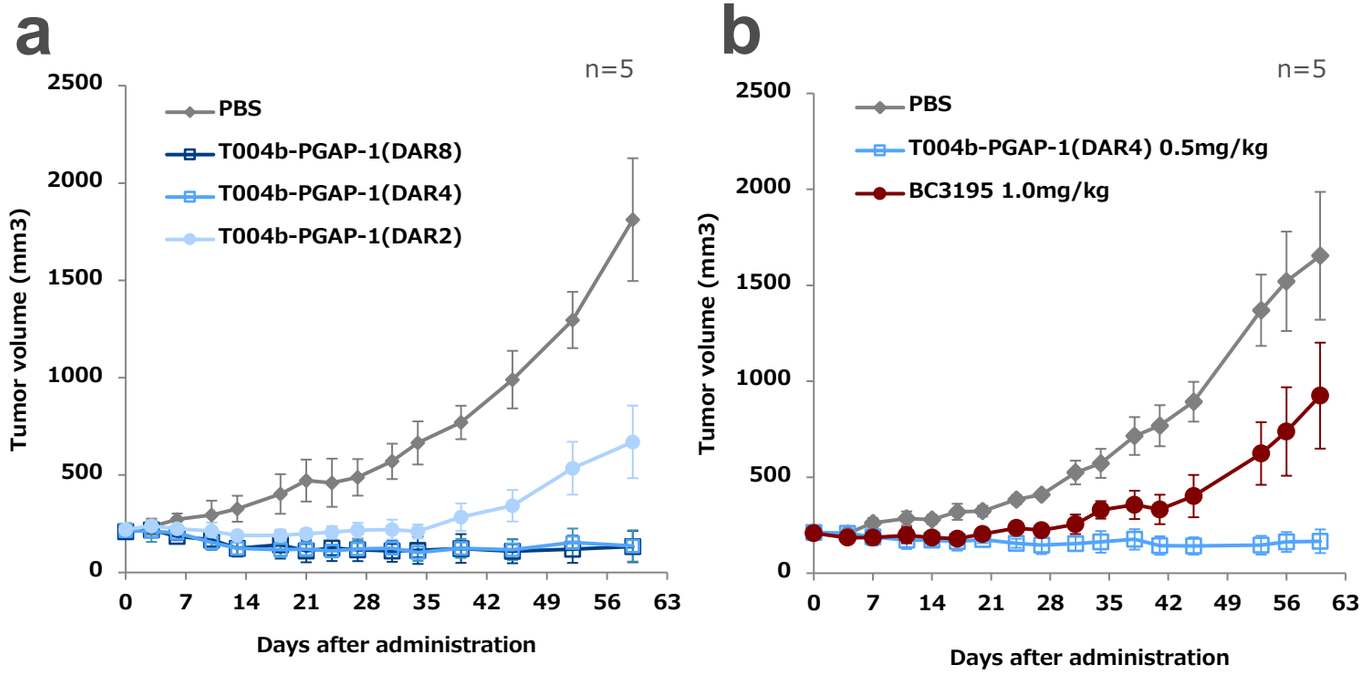
- CDH3を標的とするADCとして、UBE㈱と創薬
- CDH3に強く結合した後、がん細胞内に効率よく取り込まれるように設計
- マウスによる実験で高い抗腫瘍効果を確認（右図）
- 非GLP毒性試験は、予定通り2026年9月に終了

構成



抗体　リンカー　低分子抗がん剤

PPMX-T004bのDAR*違い（DAR2、DAR4、DAR8）及び競合との薬効比較の結果



(a) Tumor growth following single dosing at day 0 in BxPC3 xenograft mouse models with different DARs.

(b) Comparison of tumor growth with preceding ADCs.

＊ Drug Antibody Ratio (抗体1分子あたりの薬物結合数)

02 2027年3月期 第２四半期 決算概況

2027年3月期　第２四半期：業績概況

損益計算書

（単位：百万円）

	2026年3月期 第２四半期	2027年3月期 第２四半期
売上高	**60**	**52**
売上総利益	57	47
販売管理費	457	458
研究開発費	310	282
その他	146	176
営業利益	**△399**	**△411**
経常利益	**△345**	**△394**
特別損失	32	4
法人税等	0	0
純利益	**△379**	**△399**

抗体研究支援7百万円

抗体・試薬販売45百万円

PPMX-T003 ANKL治験

基盤技術費用　等

設備投資の減損損失

- 売上高：前年同期比約13.7%減
- 純利益：売上減影響及び助成金減により前年同期比２０百万円損失増

2027年3月期　第２四半期：財務概況

貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部	2026/3/31	2026/9/30
現金及び預金	1,515	1,420
流動資産合計	1,608	1,491
固定資産	14	14
資産合計	1,623	1,506

負債の部	2026/3/31	2026/9/30
流動負債	65	85
固定負債	340	390
負債合計	405	476
純資産合計	1,217	1,029
負債純資産合計	1,623	1,506

- 現預金：新株予約権の行使による株式の発行による収入による増加、研究開発費の支払い等による減少
- 固定負債：PPMX-T003（ANKL 治療薬の開発）のAMED創薬支援事業採択による長期預り金
- 自己資本比率：62.7%

2027年3月期　第２四半期：資金繰り概況

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2026年3月期 第２四半期	2027年3月期 第２四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△275	△292
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△0	202
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△4
現金および現金同等物の増減額	△282	△95
現金および現金同等物の期首残高	1,667	1,515
現金および現金同等物の期末残高	1,385	1,420

- 研究開発費の支払い等による減少
- 新株予約権の行使による株式の発行による収入による増加

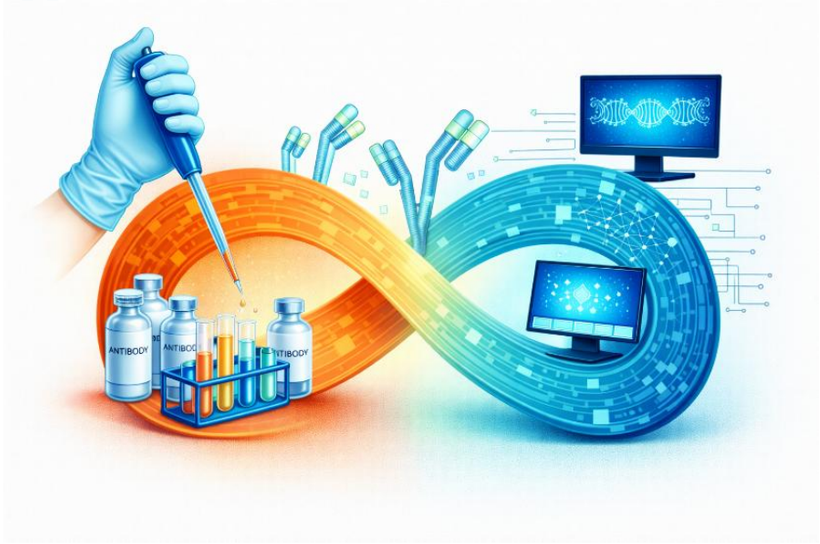
03 成長戦略

事業展開①：抗体取得技術とAI創薬の融合による技術の深化

実験科学による戦略

基盤技術

・ハイブリドーマ
・ファージディスプレイ
・シングルBセル



AI による強化

萌芽技術開発

・抗体を新しく創造
・親和性を改善
・物理的性質を改善

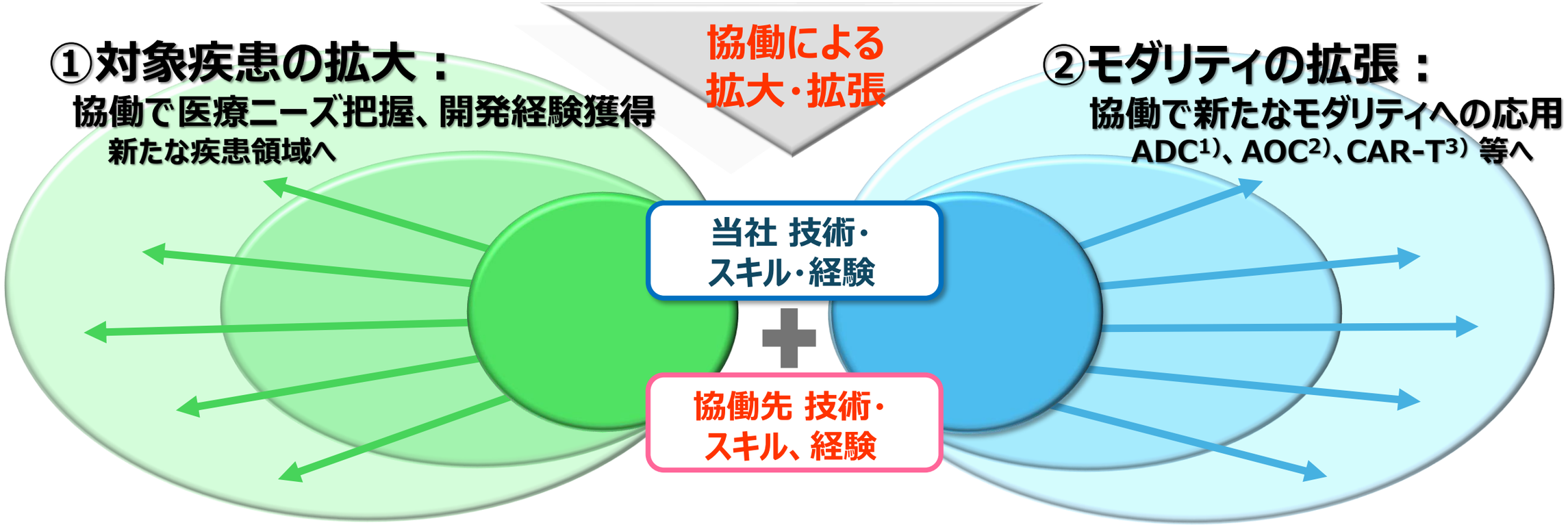
抗体取得・抗体最適化を効率化
創薬プロセスを短縮

抗体スクリーニング系構築 → 抗体取得 → 抗体最適化 → 非臨床試験

事業展開②：協働による拡大

自社リソース

・PPMXファージ抗体ライブラリ(ヒト、VHH)
及びICOS法を強みとした抗体取得技術
・がん対象の抗体評価、非臨床、臨床開発経験



1) 抗体薬物複合体　2)抗体オリゴヌクレオチド複合体　3)キメラ抗原受容体T細胞

事業展開③：当社のカテゴリー

創薬　当社の中核

自社リソース創薬
- がん等の疾患を対象
- 抗体医薬品を研究開発、導出

新たな疾患
新たなモダリティ
→ 協働による創薬事業拡大

将来
大きな成長

抗体研究支援

- 研究機関、企業等へ
- 抗体に関する研究を支援

共同研究

抗体・試薬販売

- 研究機関、企業等に
- 各種の抗体・試薬を販売

安定的
収益源



【お問合せ】

Email: ir@ppmx.com

https://www.ppmx.com